みぬま通信 第84号

2020年10月

見沼たんぼくらぶのイベント

令和２年度見沼たんぼくらぶ総会開催

令和２年７月２９日（水）、シーノ大宮の生涯学習総合センターにおいて「令和２年度総会」を役員規模で開催しました。(新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、４月１８日予定の総会を延期)総会では「令和元年度事業報告及び決算報告」が承認され、引き続き「役員改選」で「令和２年度～３年度役員」が選出された後、「令和２年度事業計画及び予算案」が可決されました。

令和２年度～３年度　見沼たんぼくらぶ役員

会　長	新井　一裕（さいたま市中央区）	再任	副会長	厚澤　正栄（さいたま市緑区）	再任
副会長	小野　達二（さいたま市見沼区）	再任	副会長	三上　雅央（さいたま市浦和区）	再任
理　事	北原　典夫（さいたま市中央区）	再任	理　事	佐々木明男（さいたま市見沼区）	再任
理　事	佐藤　清章（さいたま市浦和区）	再任	理　事	島田由美子（さいたま市見沼区）	再任
理　事	砂長　敏郎（さいたま市桜区）	再任	理　事	関根　通雄（さいたま市浦和区）	再任
理　事	田母神昭八（さいたま市大宮区）	再任	理　事	長澤　義則（さいたま市南区）	再任
理　事	召田　紀雄（さいたま市西区）	再任	理　事	八木　一郎（さいたま市浦和区）	再任
理　事	鑓水　和夫（さいたま市北区）	再任	理　事	若月きみ子（さいたま市見沼区）	再任
理　事	若野　忠男（春日部市）	再任	監　事	肥田野徳春（さいたま商工会議所）	再任
監　事	細沼　利康（ＪＡさいたま）	新任	顧　問	石川　　護（県土地水政策課長）	新任

（三上　雅央記）

ジャガイモ掘り

６月１７日　朝９時からジャガイモ掘りをさせていただきました。「今年は昨年の２倍はあるよ」という話を聞いていたので、年長児から年少児の３クラスで時間差をつけて芋掘りさせてもらいました。早くから草刈りをし、子どもたちが掘りやすいように準備してくださったおかげで、広々として見晴らしの良い中での芋掘りはなんともすがすがしいものでした。

コロナによる自粛生活が長かった子どもたちにとって、とても素敵な体験になりました。時折、ジャガイモの葉の脇で発見する虫やバッタに、またまた大喜びでした。

掘ったジャガイモは　保育園に帰ってゴザの上に広げ、小さいクラスの子にも見せました。カレー作る分、おやつでフライドポテトにして食べる分、と取り分けてもまだ残ったので、お家にもお土産に持ち帰りました。

美味しいジャガイモとお土産話に　保護者の方からも感謝されました。

ありがとうございました。

こぐま保育園　　増永　久美子

見沼たんぼくらぶのイベント

見沼ふれあい農園づくり２号地秋野菜栽培

９月５日(土)は晴天に恵まれて、見沼ふれあい農園づくり２号地の第１回秋野菜の種蒔きが順調に行われました。幸いなことに、当日の夜には降雨があり、発芽には極めて良好な天候であったようです。

この第１回の参加者は総勢３２名でした。子供たちも６名参加しています。参加者の減少は、新型コロナウイルス蔓延の影響などから、参加の申し込みが大幅に減少したことにあります。この第１回秋野菜栽培に参加された方々は元気で気力に溢れており誠に頼もしい限りでした。

この参加者の少人数に対応することとして、除草作業の機械化が導入し易くするために畝間を広げること、畝にマルチ張りを採用して秋野菜周辺に雑草が生えるのを制御する事など人手

作業の軽減策を充分配慮されています。そのために畝数が減少しますが、栽培する品種は下記に示す様に従来と同程度のものとしています。

参加者には、現状の新型コロナウイルスの対応が事前に指示されており、検温済み・マスク着用で参加されて、受付での手の消毒液散布を実施し、帰りの手洗い水・消毒薬も設置。

１０時からのセレモニーでの主催者側の挨拶、ふれあい農園における作業要領説明の後、４編成により指導役の当会役員に誘導され、マルチ張りした畝に向かい、指定畝への品種の蒔き方(種によって蒔き方が異なる場合も)の具体的な説明を受けて、夫々の種蒔きの開始です。

畝に張られたマルチには等間隔に丸い穴が開いてあり（上記写真参照)、そこに指示された要領で種を蒔くことになります。なお、発芽の後、風水害や昆虫の食害があった場合の対応として、第２回目の作業時に追加の種蒔きは行う予定がされています。

種蒔きした品種は、根菜類は大根(赤丸二十日大根・青首大根・紅芯大根・聖護院大根・紅大根)の、５品種、蕪(小蕪・赤蕪)の２品種、葉物類は小松菜、サニーレタス、春菊、法蓮草の４品種です。青首大根と小蕪は２畝蒔きで、畝数１３畝となります。

第１回目の種蒔きが直ちに実施できるよう当会役員有志による事前作業が行われ、その主な作業は除草・耕耘・施肥(苦土石灰・化成肥料・発酵粒鶏糞・マルチ張り兼畝造り)です。除草・耕耘・マルチ張り兼畝造りは農業用機械による作業になります。この農園には雑草がビッシリと生えていました。その雑草を調べてみますとイヌビエ・コセンダングサ・ナガバギシギシ・メヒシバなど可成り背の高くなる種などがありました。これらを含めて全体で３２種を数えることが出来ました。事前作業により除草し、耕耘して、肥料を散布した畑で、今後新たにどのような逞しい雑草が生えてきて来るだろうか。今回種蒔きした秋野菜と競合するそれらを如何にして阻止すかが、これからの農園作業に大きく係わってきます。

収穫は11月に行われます。それまでには秋野菜の成長を支える除草・間引きなどの主な作業があります。元気で、農園の生き生きとした土壌の香りを楽しみながら作業を行い、嬉しい収穫を迎えられるよう頑張りましょう。　　(若野　忠男記)

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

早起きバードウオッチング　　2020 年 7 月 5 日
（久々の観察会です，今年もオオヨシキリは不在でした）　　小峯　昇

新型コロナウィルス感染拡大のため、中止となっていたバードウォチングもようやく再開です。この時期は今年生まれた鳥たちが巣立っているはずです。どんな鳥が見られるでしょうか。

石橋で周囲を見回していると，ホオジロやヒバリのさえずりが聞こえてきました。土手沿いに歩き始めると，翼を透かす黄色い羽を持つカワラヒワが飛んできました。セイヨウカラシナの枯れた枝先にとまり種を食べています。よく見ると胸に黒い縦線が入ったものがいました。今年生まれた幼鳥ですね。

大和田緑地公園で，北原さんが鍵を開けて田んぼ周辺を案内してくれました。ノカンゾウが花盛り，ハンゲショウも色づいています，ハナイカダは葉の上に可愛い実をつけていました。

大和田緑地公園を出たところ，桜並木左側の民家 2 階の戸袋からムクドリが出てきました，どうやら巣があるようです。雛の声も聞こえてきます。隣の家の塀には大きなハシブトガラスがいました。ムクドリの様子を監視しているようにも見えます。頭上の電線にはムクドリが並んでいますが幼鳥が多いようですね。暫く見ていると，先程の戸袋に何かくわえた親鳥が入って行きました。

隣の家では雨どいにたまった水で 2 羽のシジュウカラが水浴びしていました。親子のようです。

水浴び後のシジュウカラ幼鳥

反対側，芝川方面の土手下にカワセミがいました。色がくすんでいます。これも幼鳥です。嘴が黒いので雄のようです。ゴイサギのねぐらの木（ごいさ木？）が伐採されていて影も形もありませんでした。土手の嵩上げ工事に関係したのでしょうか。第 3 公園の池が見えるところで，辺りを一望したところ対岸にカモがいました。カルガモかな？と思いましたが、なんとコガモの雄でした。

カワセミ雄　幼鳥

この時期にどうしたのでしょうか？ 池をぐるりと周り，フェンス際に近づいても逃げません。よくよく見るとどうやら右の翼を傷めているようでした。

水面にぷかりと浮かび出たのは先ほどから鳴き交わしていたカイツブリです。暫くすると，西側のヨシ原からカワセミが飛び出してきました。1 羽，2 羽，そしてその後をもう 1 羽。計 3 羽です！みんな幼鳥のようです。

右翼を傷めているコガモの雄

帰り道ではハクセキレイが上空を飛び，セグロセキレイの声を聞くことができました。

観察された鳥 21 種（1 は略）

カイツブリ 2，カルガモ 2、カワウ 2、カワセミ 4、カワラヒワ 6、キジバト 3、コガモ、コチドリ(声)，シジュウカラ 11、スズメ 4、セグロセキレイ声、ツバメ 4、ハクセキレイ，ハシブトガラス 20、ハシボソガラス 3、ヒバリ(声)、ヒヨドリ、ホオジロ 5、ムクドリ 15，メジロ 4，モズ(声)

ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンドの月例第１日曜日・７月のリポートより

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説　　八木一郎

見沼くらしっく館の恵比寿講

旧坂東家では恵比寿講の行事が古くから行なわれてきた。春には出稼ぎから戻り、秋には富や福をもって帰ってくる。

エビス様に感謝する意味が含まれており、右手に釣り竿、左脇にタイを抱えたエビス様は、出雲で釣りをする事代主命或いは蛭子神ともいわれる。

見沼自然公園のカモと遊ぶ親子たち

小春日和の暖かい日差しの中、母親や幼児たちと周りで一緒に憩うカモたち。過ぎ行く晩秋の公園の空気が静かに流れてゆく。

浅間神社

大宮南小学校の北の道を数分進んで左折、幼稚園に並んだところにある浅間神社。

富士講による富士山を模した周囲約９０ｍ・高さ４ｍの築山には、男塚・女塚の石段が設けられており、頂上の石碑に掘られた「浅間祠」の文字は山岡鉄舟が書いたといわれる。

祭礼の白山（ハツヤマ）には、赤ちゃんの額に初山の朱印を押して健やかな成長を願う多くの参詣者で賑わう。

見沼たんぼくらぶ会員作品展

黄色に誘われて

作者　　小川　恵子

２０１９年１２月、別所沼公園で見沼スケッチ会がありました。

青空に黄色の銀杏がまばゆいくらいに輝き、大きく手を広げ、のびのびと力強く描けますようにと思いながら描き始めました。朝のうちは寒かったのですが、徐々に暖かくなり、歩く人、走る人、自転車、飛び跳ねる園児たちなど、穏やかで賑やかな素敵な一日でした。

見沼たんぼ探訪記

加田屋新田に見る見沼弁財天

見沼自然公園の東側に沿う「緑のヘルシーロード」は、締切橋を右に見た後、北進すると左側は加田屋新田の田圃が大きく展開する。７月初旬に当る今の田圃は、５月の田植期に植えた稲も順調に成長し４０～５０ｃｍの背丈となり、緑のカーペットを一面に敷き詰めたようで、はるか先までが濃い緑に覆われ実に美しい。

およそ１ｋｍ北進すると「井橋」を右に見、この橋を渡ると直ぐに県道さいたま・鳩ヶ谷線（日光御成街道）に出る。見沼弁財天はこの橋を渡らずに、さらにヘルシーロードを少々北進すると右側に現れて来、真っ赤に塗られた祠が目に痛くなって飛び込んでくる。現在の祠は、昭和５４年、埼玉合口２期工事事業の無事なる完成を祈念して建てたものという。

井澤弥惣兵衛為永は見沼田んぼの開発に際し、水路の安定と豊作を祈願するために、水路の要所に弁天社を祀ったという。弁天社は見沼に沿って７社が祀られ、総称して見沼七弁天と呼んでいる。

弁財天は音楽、弁才、福徳、知恵をつかさどる天女であり、弁天ともいわれている。もとはヒンズー教の河川神であるサラスバティーが仏教に取り入れられたものであるとしている。

弁財天は、河川神であり水を治め、水難から人々を守護する神として信仰を深めてきました。江戸時代において、村人は台風や長雨等の風水害から守るために、水の神様である弁天社を多く祀ったとされている。見沼弁財天が代用水東縁の水辺に見られるのはこのためと思われます。　（召田　紀雄記）

日光お成り街道の枝道

みぬま通信８２号において、日光御成街道の概略を紹介したので、今回は旧春岡村に残されていた、江戸道について書いてみる。

元禄１１年に作られた古地図には、岩付（岩槻）道、大宮道、原宿（原市）道そしてほぼ直線的に南下する道として、江戸道が描かれている。

この江戸道を現在の地図に合わせてみると、綾瀬川を渡り深作村で芝浦工業大学の敷地を抜け、３２２号線（蓮田県道）に合流して、膝子で１０５号線（日光お成り街道）に入って江戸に向かっている。

芝浦工業大学の大宮キャンパスが開校した昭和４１年頃は旧道の面影を残す小高い塚の上に道標と供養塔が建っていた。道標には、右江戸江之道、左いわつき志おんし道（慈恩寺）と刻まれて、同大学のキャンパスに保存されている。

供養塔に刻まれている文字からは、美濃の国からやってきた旅人または修験者と思われるが、このあたりで行き倒れとなってしまったため、村人たちが供養のために建てたものと考えられる。

このあたり一帯は、水はけの悪い低地であったため、「捌け」と呼ばれ農業には適していなかった。

享保１３年（１７２８）に現在の見沼代用水東縁が完成することにより、旧春岡地区は広大な田園地帯として整備され、現在でもそのたたずまいは変わることなく残されている。

しかしながらその後の、東大宮バイパスの開通や春野地区の都市化が進み、いくつもの雑木林がその姿を変えることとなり、江戸道として残されていた時代の遺産もその姿を変えていくことになった。

最近では、廃線の道を辿るといったように道探しのウォーキングも人気が出ているが、お成り街道の枝道を歩くという、ウォーキングもぜひ一度チャレンジしていただければと思う。

今回紹介した元禄 11 年の古地図は、さいたま市立博物館が所蔵している。縦 53 センチ、横 74 センチの大きさである。

（佐々木　明男記）

見沼たんぼの仲間たちNo.５５

楽しかったジャガイモ掘り

昨年まで参加していたデイセンターさくら草から引き継ぎ、６月１７日にデイセンターかりんのメンバーと初めて見沼たんぼくらぶのじゃがいも掘りに参加してきました。

晴天に恵まれた当日、朝から私たちが掘りやすいようにと、くらぶの方々が１畝半を用意し待っていてくれました。はじめましての挨拶と掘り方のレクチャーを受け、早速掘り始めました。

普段、簡単な庭の手入れぐらいしかやっていない私にとっては、とことん土と触れ合う時間は何とも言えぬ、かけがえのないひととき。残っているじゃがいもはないか探したり、普段だったら絶対につかまない、触れない大きなミミズもなんのその、ヒョイッと指でつまんでポイッ！です。（笑）

それからまた貪欲に掘っては返し、掘っては返しの時間でした。みんなで汗を流して行う作

業の楽しさ、作業後の冷たい麦茶。素敵な時間です。

じゃがいもを持ち帰り、１日半程日陰で干した後、事業所の駐車場で袋詰め作業です。テーブルを設置し音楽をかけ、普段とは違う解放された場所での作業に気持ちもハレバレです。

毎週金曜日の日課で今後販売を目的とした、ドーナツ作りを行っていますが、この週はじゃがいもでスイートポテトとフライドポテト。そして次の週は芋もち。

何よりおやつ作りはみんなわくわくするのです。新鮮なじゃがいもをたんまりと堪能しました。

デイセンターかりんは南区太田窪にあります。4 月に開設したばかりの障害を持った方が通う通所施設です。

今後販売を目指し、手作り豆乳ドーナツの試作、冬の仕込みを予定しているみそ作り、また軽作業、リズム、絵画等の制作活動、運動を取り入れ、毎日の生活リズムを整えています。

現在メンバーは１０名、それぞれの持っている力と興味を活かし活動に繋げていこうと取り組んでいます。

今後も『見沼たんぼくらぶ』の活動に参加させていただき、土に触れ、季節の恵に感謝し、美味しくいただく、この全ての工程をかりんメンバーと分かち合っていきたいと思います。

ゆかりの森　デイセンターかりん
さいたま市南区大字大谷口 1584－１
（048）813・5262
丸中　愉可

見沼たんぼを支える農家さん

コロナ禍と農業
（「若谷農園」の若谷茂夫さん）

２０１５年にこの欄でご紹介した「若谷農園」の若谷茂夫さん。土作りと、化学肥料・農薬の使用低減に取り組むエコファーマーを取得していて、主に小松菜、クワイを生産していますが、市内の１００を超える小中学校の給食用に新玉ねぎも栽培しています。

子供たちに地元でできた安心・安全で美味しい野菜を食べてほしいと、味に定評のある淡路島の玉ねぎの栽培方法なども参考にして、おいしい玉ねぎを提供してきました。ところがこの春、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて突然小中学校の臨時休校が続き、全国で給食用の食材が行き場を失いました。

若谷さんの新玉ねぎも、元々、給食用に特化してほとんど市場には出していなかったことに加え、外食産業の低迷で玉ねぎが市場に溢れたことも相俟って、約６０トンが行き場を失いました。埼玉新聞でも取り上げられましたが、市や大手スーパーなどに働きかけて協力を得、また見沼で活動している市民団体も微力ながら応援し、結果的になんとか廃棄を免れることができました。

デパート・スーパーで扱っている若谷さんの小松菜

購入した人からは、甘くて瑞々しく、ほんとうに美味しかった、と感想を寄せられました。

今回のコロナ禍では、製造のほとんどを海外に依存していたマスクの不足による混乱など様々な物不足が起こりましたが、これがもし食料だったら、と考えると恐ろしいものがあります。昨年度まで６年間、さいたま市農業委員会の会長として市の農業を広く俯瞰してきた若谷さんは、人は食べないと生きていけない。農業は「生命維持産業」であって、農業者を育てることの大切さを認識してほしい。

今、日本の農業者の平均年齢は６８歳。あと５～１０年で激減する。企業の参入も話題になっているが、うまくいっている所は少ない。農業は天候に左右されるし、きちんと人を張り付けていかないと難しい。日本には適地適作できるすばらしい農地があるのだから、この機会に海外依存から脱却して、しっかりした食料生産のシステムを作って維持していくことの大切さを改めて認識してほしい、といいます。

（若谷茂夫さん）

そして見沼地域については、すべてを農地として活用することは難しいが、農地とする場所はきちんと基盤整備をして整え、その他は調節池を整備して直売所や公園、スポーツ施設などとして活用する。常に問題となっている外部から持ち込まれる残土による盛土については、調節池とする場所からの見沼の土を用いることで持ち込みを防ぎ、遊水機能を保持して見沼としての一体性を保つことができるのではないかと提言しています。

コロナ禍は、今までの日常を改めて見直すきっかけともなりました。資源に乏しい、といわれる日本ですが、豊かな農地と長年にわたり蓄積されてきた経験は、かけがえのない誇るべき資源であると改めて感じました。

取材：島田由美子・高橋いずみ
文責：高橋いずみ）
若谷農園 HP：www.ecofarm-wakaya.co.jp

見沼たんぼくらぶのイベント案内

秋野菜栽培（予定通リ実施）
２号地（見沼氷川公園の南側）
　１０月　３日　除草
　１０月２４日　除草
　１１月１４日　収穫

コロナウイルスの広がりで、下記は中止

第８２回１０月１１日（日）９時３０分・見沼自然公園休憩ロビー集合
◆ 深井家長屋門・加田屋新田から旧坂東家住宅へ

第８３回１１月２３日（月・祝）９時・大宮駅東口北寄り・子リスのトトちゃん像まえに集合
◆ 氷川参道・氷川神社・大宮公園

第１１回見沼たんぼ清掃ボランティア
１１月３日（火・祝）１０時
見沼グリーンセンター正門集合
交通:JR 宇都宮線土呂駅東口から徒歩約１０分
斜面林の体験学習「落葉かき」

１２月６日（日）９時３０分・大宮体育館正門内側集合
大和田緑地公園特別緑地保全地区へ

会員の主宰するイベント情報

（下記は予定通り実施）
ＮＰＯ法人自然観察さいたまフレンド
早起きバードウォッチング
　１０月　４日（日）７時～８時３０分
　１１月　１日（日）７時～８時３０分
　１２月　６日（日）７時～８時３０分
毎回、芝川・石橋集合（大宮体育館下）
申込み：当日、集合地
参加費：無料
コース：芝川・石橋―大和田緑地公園―芝川・境橋―大宮第３公園

見沼たんぼくらぶ会員募集

見沼たんぼをもっと知りたい
見沼たんぼにふれてみたい
見沼たんぼ保全に協力したい
そんな皆さんをお待ちしています！

◆季刊「みぬま通信」を郵送します。
◆埼玉県土地水政策課の支援のもとに様々の体験事業展開しています
◆農地はスタッフが耕し、種蒔きから始める手作業です
◆子ども連れ歓迎

○　自然観察ハイキング
　自然観察指導員のガイドで史跡を巡り野の花や野鳥等を見てあるきます
○　見沼たんぼ清掃ボランティア
○　斜面林の体験学習
○　見沼塾
見沼たんぼの歴史や文化を学ぶ講座
◆年会費　１口￥１，０００
個人（同居の家族単位）１口以上
企業・団体　３口以上
会員の皆さまの寄稿歓迎します！
見沼たんぼ地域に関わること何でもＯＫ。
A4 判１ページ　問合せ：事務局・小野まで
※ 別紙（会員寄稿）植木　秀視 氏
見沼たんぼ
東・西見沼代用水付近にある長屋門

みぬま通信第８４号

発行日　令和２年月１０月１日
発行所　見沼たんぼくらぶ
〒３３７－００５３　さいたま市見沼区大和田町１－２１２４－３　小野方
TEL・FAX　（０４８）８１３－５２６２
E-mail　t.ono@axel.ocn.ne.jp
ＵＲＬ　http://minumatanbo.web.fc2.com/

© 2020 Minuma Tuusin